

ダルニー通信

66.
2012
夏号

25 Anniversary
SINCE 1987

民際力でメコンの子どもたちに教育を



エッセイスト 酒井順子さんの ラオス訪問記

- ラオス・カンボジア奨学生レポート
- 千歳市立富丘中学校の
チャリティ・コンサート
- 秋尾晃正の巻頭言



お知らせ



皆様のご支援のおかげをもちまして、2012年は民際センター創立25周年に当たります。25周年に際し、弊センターではいくつかの企画を検討しており、決まり次第順次、「ダルニー通信」やホームページ等でお知らせいたします。また「ダルニー通信」では、この1年間（66号～69号）、25周年関連の特別企画記事を掲載する予定です。

今年は設立25周年を迎えます。これも一重に皆さまのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。「民際」「教育」「メコン」という25年前の考え方とは、今日も色褪せることなく、かえって重要性を増しているといえましょう。

「民際」に対比する言葉は「国際」で、言い換えれば「民」と「国」との関係です。国に頼る時代から、自分たちの社会的課題に対して自分たちで行動を起こす「民の主体性」の必要性が年々高まっています。多大な財政赤字、年金問題を見ても、国の行政だけに頼る時代は終わったといえましょう。国内だけでなく、世界で発生する自然災害等に即座に対応できるのは、国より市民団体の感があります。特に最貧国の国々は行政能力に課題を抱えているため、NGOの役割は大きく、世界の市民が連携して支援する時代が年々強まっているといえます。「民」の重要性、「民際」の必要性とパワーは、これから世界に欠かすことができないと自負しております。

私たちは「教育」に特化した団体です。国の枠組みでみると、受益国



民際・教育・メコン 創立二十五周年を機に改めて

一般財團法人
民際センター理事長

秋尾晃正

が援助に頼らず、自立できることが一番の要だと思います。それは一重にその国の人材によると思います。それはいかに多くの国民が「読み書き、算盤」ができるようになるかです。貧しい家庭に生まれても、教育の機会が与えられ、読み書きができるようになれば、貧困の連鎖から抜け出し、自立を促すことができます。その結果、貧困削減の促進もできます。だからこそ教育支援が重要で、最も費用対効果のよい支援方法だと信じます。

今年からミャンマーとベトナムでも教育支援活動を開始します。この「メコン」の各国が日本と連携しつつ相互に協働すれば、より一層の貧困削減と平和構築を進めることができます。歴史において近隣国は仲が悪い例がしばしば見られ、メコンと例外ではないのです。メコン・プラス・ワン、日本が関わることで、日本にとってもメコン5ヶ国にとっても、相互に大きなメリットをもたらすでしょう。

25周年を期に、改めて「民際」「教育」「メコン」を皆さんと熟考したいと思います。

各国事務局長からのメッセージ



■EDFタイ 専務理事 サンペット

昨年は巨大な自然災害で日本もタイも大変な困難に直面しました。そのさなか、日本の皆様からは多大なご支援をいただき、ありがとうございました。これまで25年間にわたる教育支援も併せて、改めて心から感謝致します。洪水の被害に対してあつという間に世界中から支援が集まったことに、皆様との絆を感じました。また、皆様からの奨学金は、子どもやその家族が貧困に立ち向かう勇気と知恵、エネルギーをも提供しています。これからも引き続きよろしく、ご支援をお願いいたします。

■EDFラオス 事務局長 カムヒア

ラオス事務局は今年、設立15年にあたります。この15年間の皆様からの温かいご支援をありがとうございます。この間、最初の年に奨学金を受けた子どもが先生になったり、公務員になったりしています。贈っていただいた図書を楽しそうに読む子どもたち、建てていただいた校舎は雨や乾季にもかかわらず良い状態を保っています。ラオスは経済成長を進めていますが、その影で基礎教育すら終了できない子が少なくありません。彼らが自立した人生を歩むことができるよう、引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。



■EDFカンボジア 事務局長 チャンディ

25周年にあたり、日頃のご支援に対しまして深く感謝致します。奨学金による教育支援は奨学生の人間開発はもちろん、村や国が発展する礎にもなります。たくさんの人が殺されたポルポト時代の荒廃から立ち直るにあたって、日本はODAを通じて多大な援助をしてくれました。しかし今なお85%のカンボジア人が農村部で暮らし、30%は貧困ライン以下です。彼らにとって奨学金はとても価値があるのです。教育は貧困から抜け出す最良の方法です。これからも引き続きカンボジアのご支援をよろしくお願いいたします。

■EDFベトナム 事務局長 高砂ヴァン

高い経済成長で注目されるベトナムですが、発展から取り残されている人たちも多く、人口の30%が依然として貧困に苦しんでいます。小学校5年、中学校4年は義務教育ですが、貧困ゆえ学校に通えない子どもたちも少なくありません。私たちが支援を予定しているドンナイ省では昨年度、12-18歳までの生徒のうち10%が中退し、さらに23%が今後そのリスクが高いとされています（教育省統計）。新しくEDFファミリーに加わる一員として、こうした現状を変えるために努力していきたいと思います。



*ミャンマー事務局は現在、構築中です。

勉強を続けるため、ひとりで家を出て小学校を卒業

ティーは5年生(12歳)。4人きょうだいの2番目で、サワンナケート県の小学校に通っています。家庭が経済的に貧しいので、小学校3年から5年までの3年間、奨学金をもらっています。1年前にお母さんが亡くなり、お父さんは再婚しました。

家にはわずかな面積の田んぼがありますが、家族が食べる半年分の米しか収穫できず、お姉さんは中学に行くのを諦めて働いています。新しいお母さんは、小学校に通っているティーにも、小学校をやめて働くように言いました。家に十分に食べるものが無いからです。しかし、ティーは耳を貸しませんでした。何度も自分に、かなり強くやめるようと言われたティーはついにひとりで家を出る決心をして、同じ村にある叔父さんの家に移りました。ティーにはできるだけ長く教育



水汲みをするティー

を受けてお医者さんや学校の先生といった専門職につく夢があるからです。それが経済的貧しさから抜け出す方法だと考えていたからです。

叔父さんの家も実は経済的に貧しいのですが、それでも引き受けってくれました。ティーは学校に行く前後、今まで以上に働いて少しでも叔父さん夫婦の負担を軽くしようと思いました。水汲み、掃除、皿洗い、草木への水やり、家畜への餌やり。毎日、一生懸命働き、5月末には小学校をなんとか卒業できそうです。しかし、中学校は…。中学校は9月から始まり、普通の道なら10キロ、道なき森を横切れば5キロ先にあります。

「私は中学校に通えるのかなあ…」。ティーは家事をしながら、遠くに見える森が巨大な壁のように感じています。

今年からラオスは中学生からの支援も開始します！

従来、弊センターではラオスの小学生を支援された方のみ、引き続き同じ生徒の中学生支援が可能でした。しかし、対象としている中南部4県では学齢児童の中学在籍率が40～55%と低いため、中学校からの支援もできないか検討を重ねてまいりました。そして、25周年を機に小学生の支援を経なくても、中学1年生からのご支援が可能となりました。金額やシステムはラオス小学生支援と同じです。今後、新しい奨学生のご支援を希望される場合は、是非、ラオスの中学生支援もご検討いただけますようにお願い致します。

カンボジア奨学金

〈洪水による被害レポート 2回目〉

両親と離れ、
妹2人とともに
矢人の家に預けられた
小5のイエン



イエンとお母さん。洪水時

昨年10月、カンボジアでは24県中18県に洪水被害が及びました。ダルニー奨学金の提供対象県であるコンポンチュナン県の被害も甚大でした。

奨学生のイエンは5年生で、両親と5人のきょうだいの8人家族です。洪水でイエンの家は屋根から下すべてが浸水し、鍋や服などわずかな所有物も流れてしまいました。普段の年は所有する小さな田んぼからは5ヶ月分のお米を収穫し、農繁期に他の田んぼで働いて1日2~2.5ドルのお金を稼ぎ、それで残り7ヶ月分の食べ物を購入していましたが、洪水のため収穫も現金収入もなくなってしまいました。そこで、両親は小さな子3人と一緒に他県に働きに行き、学校に行かなければならぬイエンと2人の

妹を、米1袋とともに1キロ離れた友人のソッパさんの家に預けました。

ソッパさんも昨年の洪水で被害を受け、お米を借りなければなりませんでした。そのため、今年は苦しい家計の中、お米も返済しなければなりません。しかし生まれたばかりの子どもがいるため、他県に働きに行くことができませんでした。こうした状況を知ってか、イエンは放課後や週末、川で魚などを捕まえてソッパさんの家族を助けています。「でも、本当は両親が一日も早く戻ってきて、自分の家で一緒に暮らしたいのです」。妹を連れて毎日、学校に通うイエンは、両親と一緒に暮らす日を指折り数えています。



ソッパ夫妻とイエン。家の前で



イエンの家は洪水で床が抜け、危険な状態



イエンの家

2012年度
ラオス・カンボジア奨学金の
締切は7月20日です。

エッセイスト、 酒井順子さんの

ラオス訪問記 (1月10日～13日)

遠く離れているけれど、
アジアの仲間として
役に立つことがあれば……

多くの日本人にとって、ラオスは未知の国かと思います。かく言う私もその一人であり、わくわくしながらラオスへ飛びました。

首都ビエンチャンから、民際センターの皆さんと車で向かったのは、私が支援している女の子・ケウクンミーちゃん9歳が住む、カムアン県のカムハエ村。ビエンチャンから、約八時間の道程でした。

到着したのは、夕暮れ時の小学校。子ども達が、二列に並んで我々を待っていてくれました。ラオスと日本の手作りの国旗を振りながら、笑顔いっぱいの子もいれば、恥ずかしそうな子も。日本人と似たような顔つきの子もいれば、東南アジア系の顔もいて、この国が多民族国家であることがわかります。とにかく誰かからこんなに歓迎されたのは生まれて初めての私は、胸がいっぱいに。

歓迎は、さらに続きました。お寺で行われたのは、バーシーという儀式。村の人々が手に手に糸の束を持ち、何か言葉を唱えながら、私の手首に結びつけてくれます。これは、ラオスでは何かにつけて行われる儀式だそうで、祝福や祈りを込めて、糸が結ばれるのです。

引き続き、村の皆さんと食事(もち米と、たくさんのおかず。おいしい!)、さらにはダンス。私達も踊りの輪に加わり、滞在数時間にしてすっかり馴染んできました。

ホストファミリーのお宅のみならず、ラオスの家の多くは高床式です。ほとんど梯子に近い階段を上がった上部が、居住スペース。その夜、半ば外にあるような(部屋の一面には壁が無い)寝床において、私は熟睡しました。日本とは全く異なる環境ですが、木と草でできた家が妙に落ち着くのは、私がアジア人だからなのでしょう。

朝は、その辺をうろうろしている鶏の声で、夜明

け前から目がさめました。水道もガスもない生活ですが、つらいと言うよりは、自分が自然の中に溶け込む感じで、体調はすこぶる快調。快調のまま、小学校を訪ねてみます。小学校では日本から持っていた折り紙でしたが、紙飛行機に夢中になる姿が何と可愛いことか。

ケウクンミーちゃん(ニックネームは「ロー」)の家も、訪ねました。お父さんは他界され、お祖母さんとお母さん、そして妹二人という女所帯。妹達はまだ小さいため、ローちゃんは実によく働きます。食事の片付け、妹達の世話、そして近くの川から、一日に何度も水を汲んでくるのです。

水の入ったバケツを両端につけた天秤棒を私も担がせてもらいましたが、これが重い!足元が定まらず、よろよろとしか歩けないのですが、まだ小さなローちゃんはスタスタ運んでいくではありませんか。

* 酒井順子さんのプロフィール *

1966年東京生まれ。2003年、「負け犬の遠吠え」で講談社エッセイ賞と婦人公論文芸賞を受賞。主な作品に「おばあさんの魂」(幻冬舎)、「徒然草REMEX」(新潮社)、「金閣寺の燃やし方」(講談社)他、多数



※「新潮45」6月号(5月18日発売)に
酒井さんのラオス訪問の記事が掲載
されました。

この村は、経済的な基準で見た時には、確かに貧しいのです。しかし他の物差しで見たならば、決して貧しくはない。食べ物はほぼ自給自足で、もちろん無農薬。家族は皆一緒に起居し、子ども達がたくさんいる。居場所が無い人が、ここにはいません。

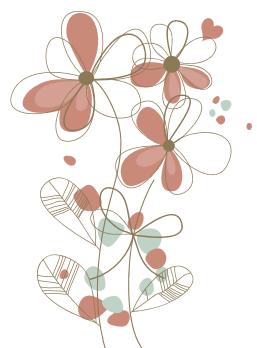
ローちゃんは将来、お医者さんになりたいそうです。お母さんもまた、子どもには高い教育を受けさせたいと願っています。ローちゃんが勉強をする環境は日本の子ども達に比べたら確かに厳しいけれど、少なくとも勉強を続ける道はあることに、私は安堵します。学校にいる子ども達は皆、学校が楽しくてたまらないという顔をしていましたっけ……。

翌日、別れが近づいてきた時、村の皆さんはまた、バーシーをして下さいました。お祖父ちゃんのように思えてきた、村の長老。一緒に踊った校長先生。優しいホストファミリーのお父さんとお母さん……。皆が糸を結んでくれる顔を見ると、涙が出そう。何と豊かな二泊三日だったことでしょうか。

遠く離れてはいるけれど、アジアの仲間であるラオスの人々に会い、自分達が何かを「してあげる」のではなく、仲間として役に立つことができればいいなあと思う私。日本に戻ってもまだバーシーの糸が残る手首を眺める度に、ローちゃんが素敵な大人になって、お母さんを喜ばせる日が来るよう、祈るのです。



【写真】
新潮社写真部
菅野健児



千歳市立富丘中学校が チャリティ・コンサートで支援



生徒会担当 浅見真也

本校の生徒会では5年ほど前から書き損じハガキを回収する活動を行っていましたが、その目的や目標が曖昧であったために支援の輪があまり広まりませんでした。この状況を改善しようと生徒会役員会で話し合った結果、まずは目的をはっきりさせた上でこの取り組みを広く知ってもらい、更に主体的に取り組みに関わるメンバーを増やしていくこうということになりました。その中に企画されたのがチャリティ・コンサートです。

幸い本校は北海道で一番生徒数が多いため（正確には今年の春に分離新設校ができたため生徒数は半減してしまいましたが）部活動も多くあり、器楽の部活動もリコーダー部、吹奏楽部の2つがあります。演奏会は生徒会が主催・運営し、この2つの部活動に出演を依頼する形で行います。演奏会の冒頭で生徒会長が挨拶をし、書記長が東南アジアの教育の現状レポートと生徒会の支援活動のプレゼンテーションをします。その後、リコーダー部と吹奏楽部が観客に馴染みのある曲を演奏します。最後には吹奏楽部の伴奏で観客と一緒に「故郷」を歌い演奏会の幕を閉じます。会場では書き損じハガキの回収の他に、募金活動や使用済みインクカートリッジの回収活動も行います。休憩時間には、小さな子ども向けに吹奏楽部の楽器体験コーナーを開設するなど、観客と

学校が
作った
ポスター



のふれあいも大切にしています。

演奏会の会場である本校体育館には本校の中学生の他にも、地域住民や校区内の小学生など幅広い年齢層の人たちが集まります。また、地域版の新聞でも報道されることから、事前に地域住民から書き損じハガキやインクカートリッジが送られてきたりもします。生徒会役員会が狙った「支援の輪の拡大」が、こうして毎年少しづつ広がってきてているのが感じられます。

演奏会は2009年から始まり今年で4回実施してきました。支援額は、まだまだ決して多いとはいえない（注：昨年度はタイ奨学金Aタイプ3人分、一昨年度はAタイプ4人分のご支援でした）、多くの人に東南アジアの子どもたちの現状を広く知ってもらえるようになりました。生徒会役員の中にも代々この活動を引き継いでいるという意識が芽生えてきました。分離により学校規模が半分になったため、次回の開催には課題も出てきましたが、これからも生徒会役員と知恵を出し合いながら支援活動を続けていきたいと思います。



18年間支援

タイの子どもたちの成長した姿を見続けて

秋田北ロータリークラブ

私たち、秋田北ロータリークラブ（2011～2012年度 会長 田村和男 会員数36名）では、1994年より18年間、毎年5名の子どもたちに奨学金を提供し支援してきました。先日も、タイの奨学生の証書が届き、例会時にお披露目させていただきました。

さて、当クラブがこの事業に取り組むきっかけは、一会员からの提案からでした。ロータリークラブには国際奉仕の部門があり、留学生へ奨学金支援や様々な国際支援活動を行っておりますが、当クラブの矢田正康会員が、ダルニー奨学金の制度を目にし、クラブ独自の国際貢献ができるプログラムではないかと提案されたのがきっかけです。

1万円で一人の子どもが1年間学校へ通える、日本では想像できないことであります。国際的支援は多々ありますが、この奨学制度のすばらしいところは、支援している子どもの証書と写真が送られてくることです。遠く離れた国の子どもへの支援ですが、見える支援に会員の賛同も得られ18年間継続しています。

また、金額的にも無理なく支援できることが、長年続いている大きな要因だと思います。

地味な支援活動ではありますが、毎年送られてくるタイの子どもたちの成長した姿を拝見できることは、クラブ一同の幸せでもあります。この活動を通じて、一人でも多くの子どもたちが笑顔で生活できることを会員一同、心から願っております。

（文責：升谷昇平氏）



前列中央が会長の田村和男氏。左隣りがクラブで支援しているベトナムからの留学生。2列目右端が升谷氏。前列の方が手にしているのは本年度に同クラブが支援している5名の奨学生の写真と証書



ラオス学校建設 設計ボランティア を募集します！

建築家の加藤隆久氏の設計により、民際センターではラオスに30校以上の小学校を建設しました。近年、中学校の校舎建設の必要度も高まりつつあるため、中学校用の校舎の設計を開始することとなりました。約1年半後を目安に、設計の完成を目指しております。そこで、建築家の加藤氏のもと、設計等のお手伝いをして下さる建築家のボランティアを募集します。CADが使用できる方、または設計の仕事をしていたが、現在は退職されている方を考えてあります。

問い合わせは akio.terumasa@minsai.org 秋尾まで。
<http://www2.gol.com/users/tk-a/laos/0.first.html>



ラーソン・ジュール・ニッポンが

タイ洪水奨学金5000キャンペーンを支援



世界最大規模の額縁専門商社ラーソン・ジュールの日本支社、ラーソン・ジュール・ニッポンは、タイ洪水奨学金5000キャンペーンを支援するために、タイのメーカーが製造する商品を2012年1月10日から3月10日までの期間限定で販売し、その売上の5%にあたる279,150円を寄付します。

同社は2001年11月より継続的にダルニー奨学金を支援しており、2011年までの10年間に3,332,783円を寄付しました。同社にとってタイ、ラオスは商品調達先としても縁が深い国で、2005年2月には代表の大河原と数名がタイ東北部ウドン・ターニーを訪れ、学校や生徒の家庭を訪問して子どもたちと交流しました。

昨年の洪水は商品調達にも一時的に影響が出た身近な災害で、民際センターのキャンペーン案内で現地の子どもたちの置かれた厳しい現状を知り、少しでも役立ちたいとの思いから今回の商品販売を企画しました。

取り扱い商品の多くが木製品である額縁メーカーとして、ラーソン・ジュールではグループ全体で環境



展示会場の同社のブースに立つ大河原社長。
ブースでダルニー奨学金を紹介

保護活動に力を入れており、環境システム再生化プロジェクトを支援するグローバル・リリーフ・フォレスト基金を設け、これまでに世界各国に30万本以上の木を植えました。また、環境に配慮した木材加工品であることが証明されたFSC/PEFC認証木材製の商品の開発にも取り組んでいます。

ラーソン・ジュール・ニッポン株式会社
<http://www.larson-juhl.co.jp>

ダルニー・アドバイザリーボード活動開始! ただ今沸騰中!!



ダルニーABCニア&コニアのご紹介

●三好一美（ニア）

アンティークジュエリー研究や英米文学翻訳を手掛ける。施設で育った少女の冒險を描く「モリー・ムーン」をベースに、子どもたちとの触れ合いを通じ、世界を広げる活動をしている。パイロエンタープライズ代表 取締役、日本MITエンタープライズフォーラム理事 & 事務局長。

●松山真之介（コニア）

「Webook of the Day」を発刊するブックレビューのリーダー的存在。バランス・スコアカードのエバンジリストとしても活躍、「気づきと学びの場」を創出するジェイカレッジ校長。東京芸術大学非常勤講師。

「倫しみながらファンダイギング」をキーワードに、東京でダルニー・アドバイザリーボードが立ち上りました。参加資格は「そんなバカな!」的アイデアを考えるなど、大いなる遊び心があること。ダルニーABC(Darunee Advisory Board Conference)を開催し、議論自熱、沸騰中です。是非あなたもダルニーABCにご参加ください。

参加ご希望の方は、民際センター事務局にお問合せください。Facebook: ダルニーABCからも参加申込ができます。

モリー・ムーンのチャリティーペンダント販売中

世界中の時間を止める力を持つ少女モリー・ムーンのダイヤモンド（「モリー・ムーンが時間を止める」ジョージア・ビング著 三好一美訳 早川書房）より）。

このモリーのダイヤモンドをイメージしてデザインされた時間が止まる？ペンダントは、圧倒的大きさのキュービックジルコニアで作られた特別のペンダントです。さあ、あなたも大切な時間を止めてみませんか？

正価:24,150円（税込）素材:CZ, シルバー925+ロジウムコーティング、セントーストーン20×10mm

今ならペンダント1個販売につき
5,000円をダルニー奨学金に寄付



ご希望の方は「ダルニー通信を見て」と明記し、下記にお申込みください。
パイロ エンタープライズ ☎03-6447-2734 mail:cust@petula.jp

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

地域で奨学生や図書セットを広める活動をしたい

- ①書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ②使用済みインクカートリッジの収集
- ③パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ（13分）。パネルを貸し出すこともができます。送料は負担願います。

個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします（3～5月と10月は学校がお休みのため訪問できません）。

タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイの切手購入

- ①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
- ②：タイ切手セット（12回分1000円）の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。
80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、窓口までお問い合わせください。

奨学生の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙（ゆうちょ銀行）を無料で送付します（タイのみ）。

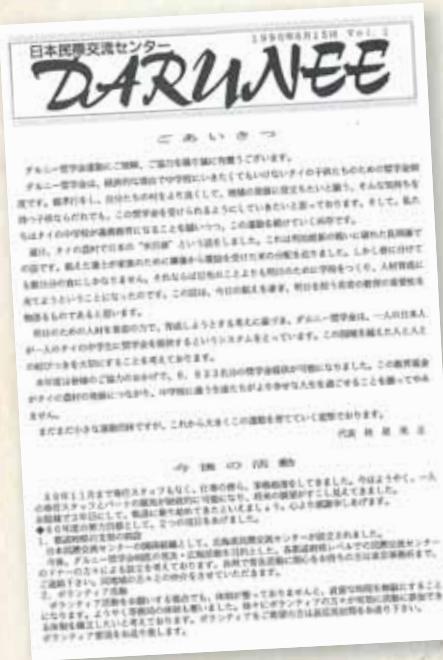
編集後記

3月でJICA総裁を退任された緒方貞子さんが退任直前、民主化の風が吹いたエジプトとチュニジアを訪れ、その印象を含め、今後の援助のあり方について朝日新聞（3月24日付）に記事を投稿されました。「これまでの援助は、相手国の政府がその国の発展を全て仕切っているという前提に立っておこなわれていた。・・・今後の援助は負の側面を助長しないよう、相手国の開発と人々の生活の向上を中心において・・・格差を出さない、どこかを置き去りにしない、全ての人を対象にする、ということだ」。さて、タイ統計局が2011年1-6月に実施した調査によれば、バンコクと首都圏3県の世帯あたり平均月収は約11万円、ダルニー奨学生の対象となっている東北地方は約47,000円（1バーツ=2.6で計算）。一方、奨学生の申込書から、奨学生を受けている世帯の年収は7～10万円です（年収ですよ）。ところで、タイに対する日本のODAの2009年までの累積援助額は借款ベースで約2兆1,000億円、贈与ベースで約3,700億円です（在タイ日本大使館ウエブ）。これに民間投資額を加えると、日本一国だけでも巨額のお金がタイに送り込まれたことになります。にもかかわらず、これだけの貧富の格差！ダルニー奨学生は、「置き去りに」された子どもたちを25年間支援し続けてきました。これも皆様のご支援のお蔭です。これからも目線を低い位置に据えて1人ひとりを大切にする支援活動を続けてまいります。引き続きご支援をよろしくお願ひいたします。（富）



一般財団法人
民際センター

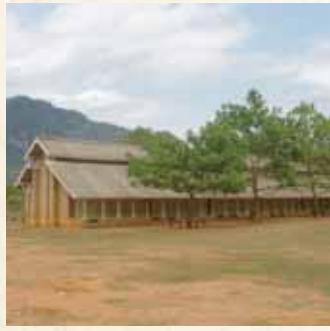
ダルニー通信 第66号 2012年6月1日発行 発行人：秋尾晃正
一般財団法人民際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL : 03-6457-5782 FAX : 03-6457-5783
Eメール : info@minsai.org ホームページ : <http://www.minsai.org/>
振替口座：00150-0-57664
表紙：ラオス 撮影：渡部 明浩



(3)ダルニー通信第1号



(1)ダルニーと秋尾



(4)第1号のナーカーム校



(5)タイの元奨学生ポットさん
と支援者の玉井さん

25年歩み

年方円、タイの子を学ぶ
民間奨学生に満意の輪

（2）朝日新聞社会面の左肩に
大きく掲載された

- 1987年 ダルニーちゃんとの出会い(Photo1)
北海道民際交流センター
(今の前身)設立
- 1988年 日本民際交流センターに名称を変更
- 1990年 朝日新聞に掲載され、支援者が大幅
に増加(P2)
「ダルニー通信」創刊(P3)
- 1991年 タイ事務局(EDF)の財団化
- 1996年 ラオス事務局開設
- 1997年 ラオス校舎建設事業開始(P4)
- 2002年 15周年事業で2人の元奨学生が来日
(P5)
- 2003年 奨学生2万口突破
カンボジア奨学生のパイロット事業開始
- 2007年 民際グループ20周年(P6)
カンボジア奨学生が正規事業に
- 2009年 一般財団法人化
奨学生30万人突破、記念のイベント開催
(P7)
- 2010年 ラオスの校舎建設に対し、加藤隆久氏と
ともに民際センターが建築学会賞(業績)を
共同受賞(P8)
- 2011年 東日本大震災・タイ洪水の被災者に対する
助け合いの連鎖
- 2012年 ミャンマー、ベトナム奨学生スタート



(6)ラオスの元奨学生ダウチャイ
と支援者の金濱さん



(7)訪問したラオスについて
講演する故立松和平さん



(8)ラオス大使館で受賞/パーティ。
前列左の2人が加藤夫妻、その
隣が前ラオス大使、右端が秋尾